サポート情報記事

Discussions での @メンションの使い方

2026 © Vitextra SIA. All rights reserved.

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

概要 4

誰かをメンションする 4

メンションの表示 5

メンションできる相手 5

メンションからメールへ 6

概要

@メンションは、特定の人をスレッドに呼び込みます。答えを知っている専門家、先月同じ質問をした同僚、説明しているシステムの所有者などです。Discussions では、任意の投稿 (新しいトピック、返信、編集) で @ と名前の数文字を入力し、候補から選ぶことで誰かをメンションできます。メンションはテキスト内で強調表示された名前として表示され、アイテムの **Mentions** (メンション) 列に記録されます。サイトの通知フローはそこからメンションを取得して、その人にメールを送ることができます。

メンションは、クラシック SharePoint ディスカッション掲示板にはなかった機能の 1 つです。サブスクリプション (「KB10404. 掲示板とトピックのフォロー: サブスクリプションとダイジェストの頻度」を参照) と合わせて、フォーラムを動かす原動力となります。

誰かをメンションする

1 エディターで、行の先頭またはスペースの後に @ を入力し、続けてその人の名前の最初の数文字を入力します (例: @ann)。
2 少し待つと、エディターの下に候補リストが表示され、一致するユーザーが最大 8 人、それぞれ名前とメール アドレス付きで表示されます。
3 ユーザーを選びます。
4 入力した @ann が完全な表示名 (@Ann Lee) とそれに続くスペースに置き換えられ、そのまま入力を続けられます。

Esc キーを押すと、何も挿入せずにリストが閉じます。スペースを入力しても検索は終了します。メンションのクエリにスペースを含めることはできないためです。1 つの投稿で何人でもメンションできます。



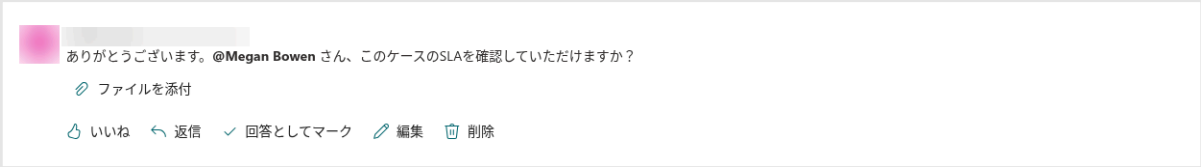
@メンションの候補からユーザーを選ぶ

メモ

検索は `@` の後に `1` 文字以上入力すると開始され、SharePoint のユーザー選択 (**Person** (ユーザーまたはグループ) 列で名前を解決するのと同じサービス) でテキストを検索します。返されるのは個々のユーザーだけで、グループ、配布リスト、単なるメール アドレスは候補に表示されません。姓の一部やメール エイリアスでの検索は、ユーザー選択と同じように機能します。

メンションの表示

公開された投稿では、メンションは `@Display Name` と表示される太字のリンクになります。クリックすると、相手のアドレスが分かっている場合はメール クライアントでその人宛ての新しいメールが開きます。メンションは投稿のテキストの一部であるため、投稿が編集された後もこの表示を保ちます。



公開された返信内のメンション

技術的には、エディターはメンションを、その人の**サイト ユーザー ID** を保持する `data-mention-id` 属性付きのリンクとして書き込みます。投稿または保存すると、Web パーツはこれらの ID を収集し、トピックまたは返信の **Mentions** ユーザー列に書き込みます。そのため、通知を送信するフローが HTML を解析する必要はありません。その人がサイトを一度も訪れたことがない場合、メンションするとサイトのユーザー情報リストに追加されます。これは SharePoint の標準的な動作であり、アクセス許可を付与するものではありません。

返信を編集すると、新しいテキストからメンションが読み直されます。削除した名前は **Mentions** 列から消え、追加した名前はそこに現れます。リストからエントリを選ばずに `@Somebody` と手で入力しても、プレーン テキストになるだけでメンションにはなりません。

メンションできる相手

候補リストには、テナントのユーザー選択が見つけるユーザーが表示されます。

実際には、テナントに招待されたゲストを含む、組織のディレクトリ内のユーザーです。リストは、すでにサイトへのアクセス権を持つユーザーに限定されません。

警告

メンションは何も共有しません。サイトを開けないユーザーをメンションすると、その人には通知が届くかもしれませんが、投稿を読むことはできません。チーム外の人を呼び込む前に、サイトの所有者がその人にサイトへのアクセス権を付与していることを確認してください。「KB10408. Discussions のアクセス許可: 閲覧、投稿、モデレートできるのは誰か」を参照してください。

掲示板に書き込めるすべてのユーザー (アイテムの追加 (Add items) アクセス許可を持つユーザー)　はメンションできます。閲覧者にはエディターがないため、メンションもできません。承認待ちの投稿内のメンションも他と同様に保存されるため、投稿の承認前に通知するか、承認後にのみ通知するかはフローが判断できます。

メンションからメールへ

Web　パーツ自体はメールを送信しません。誰が何をフォローし、誰がどこでメンションされたかを記録し、サイトの所有者が展開した **Power Automate** フローが送信を行います。メンションについての取り決めは単純です。

- イベントのソースは、**Mentions** 列にユーザーが含まれる `Discussions Topics` または `Discussions Posts` の作成または変更されたアイテムです。
- メンションされたすべてのユーザーは、掲示板やトピックをフォローしているかどうか、またダイジェストの頻度に関係なくメールを受け取ります。
- メールは、Web パーツをホストするページの `?topic=<Id>` パラメーターを通じてトピックにリンクします。
- ユーザーはメンション通知をオフにできません。サブスクリプションを削除すると止まるのはダイジェストであって、メンションではありません。

フロー　テンプレートはプレビューにはまだ同梱されていません。サイトでフローが構成されるまで、メンションは記録されますがメールは送信されません。イベント、受信者、頻度を含む完全な取り決めは、「KB10414. Discussions の通知のしくみ: サブスクリプション、メンション、Power Automate」にあります。

ヒント

メンションは控えめに、的確に使ってください。実際に答えられる 1 人のほうが、参考までに CC された 5 人よりも価値があります。チーム全体に掲示板を見てもらいたい場合は、代わりに掲示板を **Follow** (フォロー) するよう依頼してください。各メンバーが自分で頻度を選べます。これらのいずれにも Microsoft Graph のアクセス許可は関係しません。ユーザー検索と **Mentions** 列は純粋な SharePoint の機能です。「KB10413. Discussions の API アクセス許可と管理者の同意」を参照してください。